

優秀賞

中学生部門 〈グローバル〉

目黒区立目黒中央中学校1年

上杉 魁人

『当たり前前の日常』に感謝すること

二年前、高校生だった兄との交換留学生としてフランスからソフィアンが我が家にやって来た。百九十五センチもあって、チリチリの黒髪がバネのようにいっぱいぶら下がった頭。香水がプンプン匂って、まだ小五だった僕はちよっと怖かった。ところがそんな外見とは裏腹にソフィアンはとても優しく、びっくりするほど日本語が上手だった。

「どうしてそんなに日本語が上手なの？」

「日本が大好きだからいっぱい勉強してる」

「どうして日本が好きになったの？」

「うくん、いっぱいある。でも最初は写真見た。電車に乗ってる人、みんな寝てる。こんな国ある。すごい！ 日本！ 絶対行く！」

僕には当たり前すぎて正直ピンとこなかった。

ソフィアンは本当に努力家で毎晩遅くまで勉強していた。丁度僕と同じ小五の漢字を自学自習していた。丁度僕と同じ小五の漢字を自学自習していた。丁度僕と同じ小五の漢字を自学自習していたので教えてあげられることがたくさんあったけど、時々鋭い質問をされた。答えられなかった。日本語って複雑で難しいんだなと初めて気づかされた。仏語にはないらしい擬声語や擬態語にもよく爆笑された。

「どうしてそんなに難しい勉強をするの？」

「日本の大学へ行く。日本で働く。日本人と結婚する。日本人になる！ 日本人は優しい」

「えー！ フランスの方が格好いいじゃん。どうして日本人になりたいの？」

ソフィアンが言葉に詰まり、顔を曇らせた。

「今、日本語で上手に魁人に説明できない。でもいつか教える」

その翌年、今度は兄がフランスのソフィアンの家に滞在した。帰国後の話から、ソフィアンの両親は敬虔なるイスラム教徒でアルメニアからの移民だったこと、低賃金で働き、兄は職もないことなどを聞いた。最近のニュースでフランスのテロ事件やその根底にある移民問題について理解できるようにもなった。

ソフィアンの言葉の数々が僕にたくさん気づかせてくれ、今でも視野を広げさせてくれている。世界に誇れる日本でありたい。